見よ、友情の翼、高く飛べるを
アニメ 啄木鳥探偵處 展

きつつきたんていどころ

2020年テレビ放送で人気を博したアニメ「啄木鳥探偵處」（原作：伊井圭／創元推理文庫刊）は、文明開化の浅草界隈を舞台に歌人 石川啄木と言語学者 金田一京助が、数々の怪事件を推理し解決していく探偵物語です。主役をとりまく文士仲間として萩原朔太郎、吉井勇、若山牧水、野村胡堂、平井太郎（江戸川乱歩）、芥川龍之介らが登場し、彼らの厚い友情と恋模様が描かれています。

本展では、アニメ作品を中心に紹介するとともに、朔太郎と啄木に焦点をあて、同じ文芸雑誌に投稿された詩や評論をはじめ、著書などを展示しふたりの表現活動の足跡を辿ります。

なお会期中は、展示と併せてお楽しみいただく機会として、アニメ上映会を開催いたします。

フィクションとノンフィクションが交差する本展を通して、明治末期の文壇世界をどうぞお楽しみください。

©2020伊井圭・東京創元社／「啄木鳥探偵處」製作委員会

アニメ「啄木鳥探偵處」公式サイト https://kimikoe.com/kitsutsuki/

朔太郎と啄木の足跡を辿る
資料展示

「明星」卯歳第7号

東京新詩社 1903(明治36)年
啄木（石川白蘋）の短歌四首掲載。朔太郎(萩原朔)の短歌は三首初掲載された。

「暁声」第1号

大間々小学校同窓会
1906(明治39)年4月
啄木は新体詩「海辺の春の夜」を、朔太郎(美佐雄)は「窓による日」短歌六首を寄稿。

「スバル」第11号

昴発行所 1909(明治42)年11月
啄木は編集・発行人。
朔太郎(萩原咲二)は短歌二首掲載。

小説『我等の一団と彼雲は天才である』

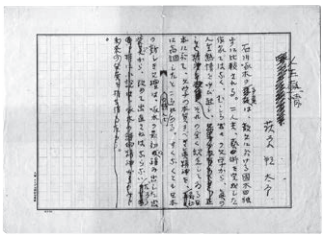
改造社出版 1933(昭和8)年
石川啄木著
朔太郎の遺蔵書。

「おち栗」第1巻第1号

麗藻社 1909(明治42)年
啄木は散文「手を見つつ」を、朔太郎(咲二)は散文詩「宿酔」を寄稿。

「麺麭」第6巻第6号

麺麭社 1937(昭和12)年7月号
朔太郎が啄木について語った座談会「石川啄木と時代」が掲載された。



朔太郎原稿「人生熱情」

1928年(昭和3)年12月
朔太郎が啄木について評した文。
改造社「文学月報」第24号に掲載。
(写真パネル展示。写真提供：盛岡てがみ館)

❊ 関連イベント ❊

アニメ 啄木鳥探偵處 上映会

きつつきたんていどころ

会場：3階ホール（定員50名）
観覧無料

各日二首、アニメの世界を当館ホールのスクリーンでご堪能ください。

◆各回14時開演（開場13時30分）
◆所要時間　約1時間

11/12(土)	第三首「さりげない言葉」 第四首「高塔奇譚」
12/18(日)	第五首「にくいあん畜生」 第六首「忍冬（すいかずら）」 ※当館館長が声優として特別出演
1/9(月祝)	第十一首「逢魔が刻」 第十二首「蒼空」

※お申し込み不要　当日会場へお越しください

同時期開催

「ふだん着の詩集、よそゆきの詩集
—萩原朔太郎著作展」
9月17日(土)～12月11日(日)　会場：2階朔太郎展示室

特別企画展「萩原朔太郎大全2022」
「そこに何をみたか
—萩原朔太郎研究58年の軌跡
萩原朔太郎研究会歴代会長展」
10月1日(土)～1月15日(日)　会場：2階企画展示室

観覧料：一般500円
9月20日～9月30日は100円でご覧いただけます。
高校生以下無料。障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料。
10月1・8・9・28日、11月1日・1月9・15日は無料

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館
〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
TEL.027-235-8011　FAX.027-235-8512
https://www.maebashibungakukan.jp/

◎アクセス（交通案内）
電　車　JR前橋駅から徒歩約15分
上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分
自動車　関越自動車道 前橋I.Cから車で約15分
※広瀬川サンワパーキング（市営パーク城東）のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。

前橋文学館HP　朔太郎大全HP